

伝統と信頼の「朝倉内科学」待望の全面改訂

ASAKURA
Internal Medicine

[総編集]

矢崎 義雄 国際医療福祉大学総長

[編集]

赤司 浩一 九州大学教授
渥美 達也 北海道大学教授
伊藤 裕 慶應義塾大学教授
稲垣 暢也 京都大学教授
神田 隆 山口大学教授
木下 芳一 島根大学教授
工藤 正俊 近畿大学教授
小室 一成 東京大学教授
須永 真司 調布東山病院院長
南学 正臣 東京大学教授
長谷川好規 名古屋大学教授
松本 哲哉 東京医科大学教授
楽木 宏実 大阪大学教授

第 11 版

new 新章：「心身医学」「老年医学」が加わります。

new 本文の理解を深め、広げる
デジタル付録が付きます。

- 700名余の精鋭執筆陣による最新の記述。
- 読みやすさに重点をおいたレイアウトと図表。
- 医師国家試験出題基準の内科関連項目を網羅。
- 第10版以降の医学の進歩と変化をわかりやすく記述。
- より使いやすく、よりお求めやすく、進化しています。

内
科
血
学

 朝倉書店

見やすいレイアウト

本文の文献の例

■文献(②文献 12-22-5)

鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会編：鼻アレルギー診療ガイドライン 2013，ライフ・サイエンス，2013。
日本アレルギー学会 Anaphylaxis 対策特別委員会：アナフィラキシーガイドライン 2014，メディカルレビュー社，2014。
日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会監：喘息予防・管理ガイドライン 2015，協和企画，2015。

②文献の例

②文献 12-22-5

1) 日本アレルギー学会 スギ花粉症におけるアレルギー免疫療法の手引き，日本アレルギー学会，2013。
2) 日本皮膚科学会監：アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016，協和企画，2016。

文献について：(Attalら,2003)という表記のものは各文章末の文献欄に掲載され，5)など本文中で肩付数字のものは②文献としてデジタル付録に追加記載されています。

※紙幅の制約から本文中に掲載される文献は3つ程度に抑えていますが，デジタル付録にはより多くの文献が掲載され，様々なエビデンスを確認することができます。

豊富な図と表で本文の理解を助けます。
図の見方をわかりやすく解説するシエーマが付されています。

老年医学における新しい展開

社会の超高齢化が進み，臓器別診療による疾患治療だけでは適切な高齢者診療が達成できない時代となった。医学部生への教育における到達目標としても，高齢者総合機能評価(CGA)，老年症候群(歩行障害・転倒，認知機能障害，排泄障害，栄養障害，摂食・嚥下障害など)，フレイル，サルコペニア，エンドオブライフケアといった老年医学に特有な面では，認知行動障害のある高齢者に対する対応の実施，歩行障害・転倒の評価，鑑食・嚥下機能を含めた栄養マネジメントの，介護保険制度を理解した退院支援の実施まで幅広い領域の世代が75歳以上の後期高齢者であるさまざまな社会保障，医療，福祉でしているが，老年医学の進歩，さまざまな問題を克服して，世界最長寿国かつ高齢化ある超高齢社会国として世界をリードする。化機序の解明やそれに基づく新しい老化制御には慶應義塾大学が，老化制御因子とし nucleotide(ニコチンアミド・モノヌクレオ酸)の臨床研究を世界ではじめて開始すること NMN 投与により，加齢に伴い生じる疾病の中間寿命が最大寿命よりも延伸すること始への期待は大きい。その他にも，老齢マウス(マウス)により，老齢マウスの器官の老進を示した研究，断続的飢餓による線虫の内情報伝達機構の解明，マウスでの老化細胞からの SASP(senescence-associated secretory phenotype)の機序についての研究など，新規性が高い研究の進歩が期待される。

2016年6月2日の閣議決定で，「ニッポが，その中に，高齢者に対するフレイル(脆弱性，frailty)の概念を国民に広く啓発する」が表現した用語である。robust(頑健，健康)と frailty(脆弱性)の概念を国民に広く啓発するだけでなく，国民の多くが理解して自らが必要がある。臨床的な面でも，いずれの診療ガイドラインや手術適応のガイドライン症発症リスクの早期診断と早期介入手段の活力ある超高齢社会のために必須の分野である。

目を浴びる。超音波では高輝度エコー，肝腎コントラスト陽性，肝内脈管の不透明化で診断される(図 11-1-8)。脂肪化が高度になると深部減衰が認められる。非アルコール性脂肪肝炎(NASH)を早い段階から B モードで診断することは現時点では困難である。現在 FibroScan[®] に CAP (controlled attenuation parameter) が使用可能となり減衰法により脂肪肝の程度を推測できる方法も開発された²⁾。

h. 腫瘍性肝疾患

i) 肝血管腫 (hepatic hemangioma)

肝血管腫はその特徴的所見から B モードでも診断できることが多い。辺縁を拡大してよく観察すると細かいギザギザがみられること，高エコーの緑どり(marginal strong echo)を認めることや体位変換により内部エコーが変化するカメレオンサイン^{3,4)}や腫瘍内のスペckルのゆらぎ⁵⁾などが特徴的である。結節が 20 mm 以下で小型の場合高エコーであることが多い。これは，基礎疾患に慢性肝炎や肝硬変がある場合，脂肪化を伴う早期肝細胞癌との鑑別が必要である。一方サイズの大きい血管腫では内部は高エコーや低エコーが混在することが多い。境界も不明瞭となりほかの腫瘍との鑑別が問題となる。造影超音波では腫瘍周囲から徐々に内部にしみ込むスポット状の染色(fill-in)が特徴的である(図 11-1-9)。この fill-in 所見はほかの肝腫瘍では認めず，肝血管腫の診断的特異性が高い(Dietrich ら，2007)。カラードブラ法では血管腫の血管は豊富であ

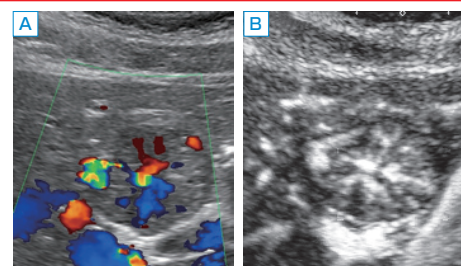


図 11-1-10 限局性結節性過形成

A: カラードブラ法，spoke-wheel pattern を認める。中心癌を矢頭で示す。
B: ペルフルタン造影 MFI (micro flow imaging) 法。微細な spoke-wheel pattern が描出される。

るが血流速度が遅いものが多いため，血流シグナルは検出され難い，辺縁にわずかに認められる。

ii) 肝限局性結節性過形成 (focal nodular hyperplasia: FNH)

FNH は正常肝に発生する多血性良性腫瘍である。B モードでは低エコー～高エコーまでさまざまな境界が低エコーであることが多い。形状は類円形で境界やや不明瞭である。カラードブラ法や造影超音波検査では，腫瘍の中心部に太い血管が流入し，周囲に広がる特徴的な血管構築(spoke-wheel pattern)を呈する(図 11-1-10)。また，肝静脈への流出血管をとらえることもある⁶⁾(Attal ら，2003)。

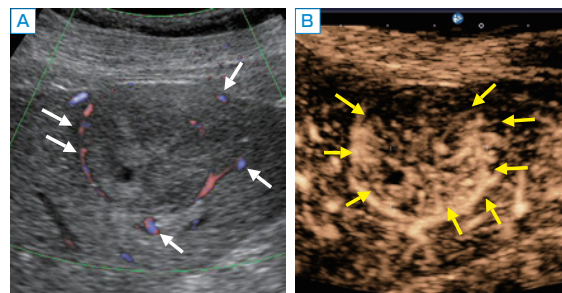


図 11-1-11 肝細胞癌
A: カラードブラ法では腫瘍辺縁にわずかに血流を認める。
B: ペルフルタン造影 MFI (micro flow imaging) 法では辺縁から中心部に向かう腫瘍血管が明瞭に描出される。

各論冒頭の「新しい展開」で各分野の進歩と変化を解説。
11版では新しく「心身医学」と「老年医学」の章が加わります。

本文と図との見やすい対応

豊富なデジタル付録

●第11版では，これまで紙数の制約などから掲載ができなかった豊富な情報を提供(本文換算約500頁相当)。本文の理解をより深めることができます。

●本文中に②マークが付いている部分の記述に対応した，動画やコラム・ノート，図・表，追加文献などがウェブ上から閲覧可能になります。

②コラム：本文の理解を深められる，基礎からアドバンスな内容まで記したコラムが付録で見られます(約570)。他に本文の補足説明や注記を記した②ノートもあります(約120)。

例

②コラム 3：未熟児・新生児期の PDA

未熟児や新生児期の PDA では，拡張期圧の著明な低下により急性腎不全や壊死性腸炎を起こすことがある。

②コラム 2：発生異常

通常の左大動脈弓の動脈管は左第 6 咽頭弓動脈の遠位部に相当し，左肺動脈根部と下行大動脈をつないでいる。複雑な奇形でまれに右鎖骨下動脈より起始する右動脈管が遺残開存することがある。動脈管は生直後の肺呼吸の開始とともに血管収縮が

②図，②表：本文の記述をより深く理解するための図版・画像，詳細な表が付録で見られます(図が約700，表が約300)。

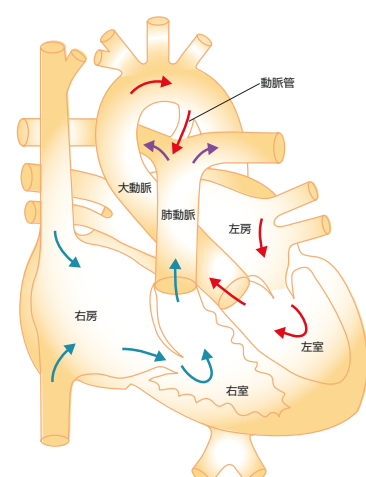
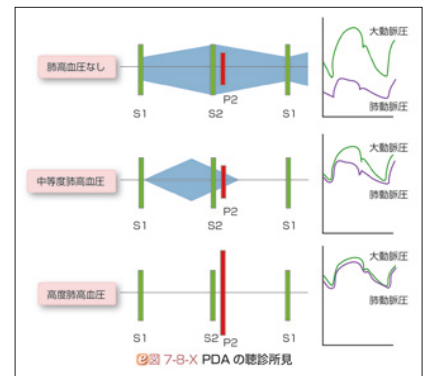


図 7-8-11 動脈管開存

昇して肺高血圧になる。この状態で治療せずに放置した場合には，肺血管閉塞性病変が不可逆化して Eisenmenger 症候群になることがあり(②コラム 3)。

身体所見 (Allen ら，2012；Benson ら，2009)

典型例では，Ⅱ音にピークをもつ漸増漸減型の連続性雑音を胸骨左縁第 2 肋間聴取する。生後まもない時期には生理的な高い肺血管抵抗により心雑音が聞かれにくいことがあるが，肺血管抵抗の低下とともに収縮期心雑音が聞かれ，次第に拡張期雑音が加わって連続性雑音となる。また短絡量の多い PDA では，Ⅲ音や心尖部で低調な拡張期ランブルが聴取される(相対的な僧帽弁狭窄)。また拡張期に大量の血液が肺動脈へ流れ込むために，大動脈拡張期圧は低下し，四肢の脈拍は反跳脈(bounding pulse)を呈する(②図 7-8-X)。

肺高血圧が進行すると，拡張期雑音が聴取されずに収縮期雑音のみとなることもある。さらに進行して右室と左室が等圧になると，動脈管を介した心雑音は消失し，Ⅱ音の亢進のみが聴取されるようになる(②コラム 4)。

検査所見

1) 胸部 X 線： 短絡量の多い症例では，肺動脈の拡大による左第 2 弓の突出，肺血管陰影の増強，心拡大がみられる。成人では動脈管に石灰化が認められることがある。

2) 心電図： 短絡量が多いと左房負荷や左室肥大，肺高血圧を合併すると両室肥大となる。

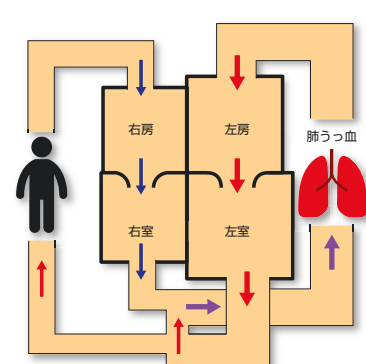


図 7-8-12 PDA の血行動態

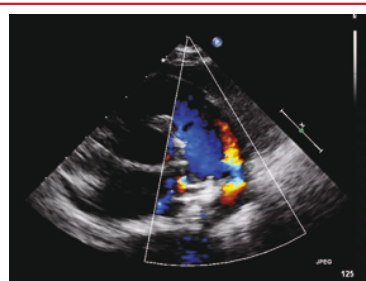


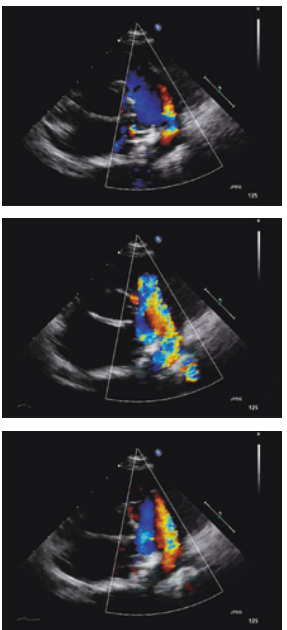
図 7-8-13 PDA の乳児の断層心エコー所見(肺動脈分岐部短軸像) 下行大動脈から主肺動脈に向かって上向き短絡血流が認められる(1 歳)。


3) 断層心エコー： 小児では胸骨上窩もしくは胸骨左縁からの矢状断面で動脈管を直接に描出できる。ドブラ断層では主肺動脈内へ向かう短絡血流を確認する(②動画 7-8-Q，図 7-8-13)。

4) MSCT，MRI： 最近ではマルチスライス CT もしくは MRI で動脈管の形態を三次元的に観察し，動脈管の形態を非侵襲的に判断することが可能である。

5) 心臓カテーテル検査： 大動脈造影により動脈管の形状と内径を確認し，コイル塞栓治療(後述)の可否および使用するコイルを決定する。高度の肺高血圧を伴う症例では心臓カテーテル検査を行い，肺血管抵抗値を計測し，閉鎖の適応を判断する。

動画イメージ



序文より	総編集 矢崎 義雄	
本書の初版は、1977年に刊行された。爾来内科学の進歩に即して数年の間隔で、間断することなく常に改訂が重ねられ、このほど第11版を上梓する運びとなった。この間40年に及ぶ過程のなかで、数多くの内科学書が出版されたが、本書は内科学におけるもっとも基本的な教科書としてゆるぎない高い評価を受けてきた。(中略)		
わが国は超高齢社会を迎え、高齢者の特性に注目した診療の進め方が、社会的にも重要な課題になっている。また、ライフイベント(災害や近親者の死亡など)や日常生活・職業生活におけるストレスなどの心理的社会的因子から、心身症が増加傾向にある。そこで第11版では、老年医学と心身医学を新たな章として加えることとした。		
さらに第11版では、これまで紙数の制限から掲載できなかった画像や詳細な表、本文を補足する記載をコラムやノートとして電子情報で提供することとなった(📎マーク)。また、エビデンスに基づく記載とするため、文献も充実させ電子情報とした。さらに、従来の書籍には掲載不可能な動画や音声データも併せて参照できるようにした。書籍とともに電子情報を参照することで、より理解が深まることと思う。(後略)		

各論の新しい展開・内容目次

分冊第Ⅰ巻	1. 内科学総論	【目次】内科学総論／患者へのアプローチの基本／遺伝性疾患／腫瘍性疾患総論／医原性疾患
	2. 老年医学	【目次】加齢・老化／老化の科学／高齢者の保健や診療における目標／高齢者の診察と評価／高齢者の薬物療法
	3. 心身医学	【目次】総論／心身症／摂食障害／パニック症／パニック障害／精神腫瘍学(サイコオンコロジー)／PTSD(心的外傷後ストレス障害)
	4. 症候学	【目次】発熱／発疹・皮膚色素沈着／黄疸／腹痛／悪心・嘔吐／食欲不振／胸やけ・げっぷ／吃逆(しゃっくり)／口渇／嚥下困難／便秘／下痢／吐血／下血／肝腫大／脾腫／リンパ節腫脹／浮腫／腹部膨隆／くも状血管腫／手掌紅斑／腹水／甲状腺腫／肥満／るいそう／ばち指／チアノーゼ／Raynaud症状／胸水／貧血／出血傾向／胸痛／胸部圧迫感／呼吸困難／いびき／異常呼吸／動悸／咳／痰／喘鳴／咯血／血痰／血尿／乏尿・無尿／多尿／脱水／排尿障害／四肢痛／関節痛／腰痛／背痛／意識障害／失神／頭痛／痙攣／運動麻痺／めまい・耳鳴り／発育障害
	5. 治療学	【目次】5-1 治療学総論…薬物療法／輸液療法／栄養療法／輸血・成分輸血／呼吸管理／放射線療法／リハビリテーションと運動療法／緩和医療と終末期ケア／5-2 救急治療…心肺停止／急性心不全／急性呼吸不全／腹痛(急性腹症)／消化管出血／昏睡(意識障害)
	6. 感染症	【目次】総論／各種感染性疾患／細菌感染症／抗酸菌症／真菌症／マイコプラズマ感染症／クラミジア・クラミドフィラ感染症／リケッチア感染症／スピロヘータ感染症／ウイルス感染症／原虫疾患／線虫症／吸虫症／条虫症／外部寄生虫感染症

分冊第Ⅱ巻	7. 循環器系の疾患	【目次】循環器疾患患者のみかた／心血管代謝と機能／循環器疾患の主要病態／循環器疾患と遺伝子異常／検査法／不整脈／虚血性心疾患／先天性心疾患／成人でみられる先天性心疾患／後天性弁膜症／感染性心内膜炎／心膜疾患／心筋疾患／大動脈疾患／先天性結合組織疾患に伴う血管病変／人工臓器・補助循環・臓器移植／末梢動脈および静脈疾患／肺性心疾患／心臓・血管外傷
	8. 血圧の異常	【目次】血圧異常のみかた／本態性高血圧症／二次性高血圧／低血圧
	9. 呼吸器系の疾患	【目次】総論／感染症／気道・肺病疾患／アレルギー・免疫性疾患／間質性肺疾患／代謝異常による肺疾患／無気肺／急性呼吸促迫症候群／嚢胞および拡張性気管支・肺疾患／肺循環障害／呼吸調節の異常／肺腫瘍／胸部リンパ系疾患／胸膜疾患／縦隔疾患／横隔膜の疾患／胸郭の異常(漏斗胸・鳩胸)／発育異常・形成不全／慢性呼吸不全

分冊第Ⅲ巻	10. 消化管・腹膜の疾患	【目次】総論／口腔疾患／食道疾患／胃・十二指腸疾患／腸疾患／蛋白漏出性胃腸症／消化管ポリポース／消化管憩室・憩室炎／腹膜疾患／全身疾患と消化管／薬剤・異物と消化管
	11. 肝・胆道・脾の疾患	【目次】肝疾患総論／急性ウイルス性肝炎／劇症肝炎・亜急性肝炎／慢性肝炎／非アルコール性脂肪性肝疾患／肝硬変／原発性胆汁性胆管炎／原発性硬化性胆管炎／アルコール性肝障害／薬物性肝障害／体質性黄疸／代謝性肝疾患／肝腫瘍／肝腫瘍・肝嚢胞／特発性門脈圧亢進症／肝脾脈閉塞症・門脈閉塞症／循環不全時の肝障害／ほかの疾患に伴う肝障害／寄生虫による肝疾患／妊娠と肝障害／新生児黄疸・新生児肝炎／胆道・脾疾患総論／胆石症および胆道感染症／良性胆道狭窄(閉塞)／脾・胆管合流異常症／先天性胆道拡張症／胆嚢・胆道の腫瘍／脾疾患
	12. リウマチ性疾患およびアレルギー性疾患	【目次】リウマチ性疾患総論／関節リウマチおよび類縁疾患／Sjögren症候群／全身性エリテマトーデス／全身性強皮症／多発性筋炎・皮膚筋炎／混合性結合組織病とオーバーラップ症候群／血管炎症候群／サルコイドーシス／抗リン脂質抗体症候群／Behçet病／再発性多発軟骨炎／Weber-Christian病／クリオグロブリン血症／先天性結合組織疾患／線維筋痛症／結晶誘発関節炎／感染性関節炎／小児のリウマチ性疾患／IgG4関連疾患／自己炎症性症候群／アレルギー性疾患総論／気管支喘息／アレルギー性鼻炎・花粉症／好酸球増加症・好酸球増加症候群／過敏性肺炎／アナフィラキシー／血清病／薬物アレルギー／食物アレルギー／職業性アレルギー／昆虫アレルギー／ペットアレルギー／その他のアレルギー性疾患／原発性免疫不全症候群／後天性免疫不全症候群

分冊第Ⅳ巻	13. 腎・尿路系の疾患	【目次】総論／慢性腎臓病(CKD)／原発性糸球体疾患／ネフローゼ症候群／遺伝性腎疾患／全身疾患と腎障害／間質性疾患／腎と血管障害／尿細管疾患／急性腎障害／末期腎不全／妊娠と腎／中毒性腎障害／その他の腎・尿路疾患
	14. 内分泌系の疾患	【目次】総論／視床下部・下垂体／下垂体後葉／甲状腺／副甲状腺・カルシトニン・ビタミンD／副腎皮質／副腎髄質／性分化疾患／多発性内分泌腫瘍症／神経内分泌腫瘍(カルチノイド腫瘍)／異所性ホルモン産生腫瘍／ホルモン受容体異常症／心臓血管ホルモンと疾患／脂肪由来ホルモンと疾患／摂食調節ホルモンと肥満／インクレチンとエネルギー代謝／加齢とホルモン／ホルモン補償療法／内分泌攪乱物質／乳腺疾患／子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌
	15. 代謝・栄養の異常	【目次】総論／糖代謝異常／蛋白質・アミノ酸代謝異常／脂質代謝異常／メタボリック症候群／その他の代謝異常／栄養異常

分冊第Ⅴ巻	16. 血液・造血器の疾患	【目次】血液疾患患者のみかた／造血のしくみ／血球の動態と機能／凝固・線溶系／臨床検査／造血器腫瘍のWHO分類／造血器腫瘍の発症機構と治療／造血幹細胞移植術／赤血球系疾患／白血球系疾患／血栓・止血疾患／輸血
	17. 神経系の疾患	【目次】神経疾患患者のみかた／局所診断の進め方／主な神経症候／神経学的検査法／血管障害／神経変性疾患／感染症／非感染性炎症性疾患／脱髄疾患／代謝性疾患／中毒性神経疾患／内科疾患に伴う神経系障害／先天性疾病／脳腫瘍・脊髄腫瘍／頭部外傷・脊髄外傷／脳脊髄液循環異常／発作性神経疾患／脊椎脊髄疾患／末梢神経疾患／神経筋接合部疾患／筋疾患
	18. 環境要因と疾患・中毒	【目次】18-1 生活・社会・環境要因…生活習慣病／喫煙関連疾患／アルコール関連疾患／温熱・寒冷による疾患／減圧症／放射線障害／災害・避難生活における疾患／化学物質過敏症／VDTIによる障害／動揺病／電撃傷／18-2 中毒…重金属中毒／ガス・その他の工業中毒／食中毒／農薬中毒／有毒動物による咬刺傷／薬物中毒・依存症／麻薬・覚醒剤を含む精神作用物質による依存と中毒

所属別執筆者一覧

北海道・東北

- 北海道大学**

秋田 弘俊

渥美 達也

大滝 純司

坂本 直哉

佐々木秀直

豊嶋 崇徳

西村 正治

平野 聡

森本 裕二

今野 哲

保田 晋助
- 札幌医科大学**

櫻井 晃洋

高橋 弘毅

高橋 裕樹
- 手稲溪仁会病院**

真口 宏介
- 医療法人北武会**

澤田 賢一
- 旭川医科大学**

羽田 勝計

長谷部直幸

佐藤 伸之

牧野 雄一

竹内 利治
- 弘前大学**

伊藤 悦朗

大門 眞

福田 眞作

三上 達也
- 青森県立保健大学**

渡部 一郎
- 青森県立中央病院**

馬場 正之
- 岩手医科大学**

滝川 康裕

松本 主之

高橋 智弘
- 岩手県立中央病院**

三森 明夫
- 東北大学**

青木 正志

伊藤 貞嘉

一ノ瀬正和

呉 繁夫

下川 宏明

中山 昌明

張替 秀郎

福土 審

森 悦朗

山谷 睦雄

廣田 衛久
- 東北医科薬科大学**

海老名雅仁

関 雅文
- 坂総合病院**

高橋 洋
- 秋田大学**

佐藤 滋

山田祐一郎

小松田 敦

田川 博之
- 山形大学**

上野 義之

加藤 丈夫

松奇 葉子

- 国立病院機構山形病院**

川並 透
- 福島県立医科大学**

大平 弘正

入澤 篤志

宇川 義一

小原 勝敏

佐治 重衡

竹石 恭知

田中 恵子

斎藤 純平
- 労働者健康安全機構福島労災病院**

渡辺 毅

関 東

- 筑波大学**

石井 幸雄

島野 仁

住田 孝之

竹越 一博

千葉 滋

檜澤 伸之

兵頭一之介

藤本 学

本間 覚

山縣 邦弘

矢藤 繁
- 地域医療機能推進機構**

徳田 安春
- 自治医科大学**

石橋 俊

苅尾 七臣

神田 善伸

長田 太助

長嶺 伸彦

萩原 弘一

蓑田 清次

山本 博徳

大森 司

森澤 雄司

林 芳和

矢野 智則
- 獨協医科大学**

石井 芳樹

石光 俊彦

春木 宏介

平石 秀幸

平田 幸一

三谷 絹子
- 群馬大学**

草野 元康

倉林 正彦

桑野 博行

土橋 邦生

廣村 桂樹

山田 正信

宗田 真

佐藤 哲郎

保坂 浩子
- 前橋赤十字病院**

野島 美久
- 埼玉医科大学**

天野 宏一

荒木 信夫

岡田 浩一

木崎 昌弘

金澤 實

酒井 文和

- 棚橋 紀夫
- 永田 真
- 羽田 勝征
- 前崎 繁文
- 光武耕太郎
- 三村 俊英
- 持田 智
- 防衛医科大学校**

三浦総一郎

川名 明彦
- 埼玉県立精神医療センター**

和田 清
- 志木呼吸器科クリニック**

赤柴 恒人
- 千葉大学**

岡本 美孝

亀井 克彦

桑原 聡

巽 浩一郎

中島 裕史

横手幸太郎

石和田稔彦

田村 愛
- 千葉県立保健医療大学**

松谷 正一
- 国立がん研究センター東病院**

塚崎 邦弘
- 神経内科津田沼**

朝比奈正人
- 日本大学**

石原 寿光

小川 眞広

亀井 聡

橋本 修

早川 智
- 帝京大学**

内田 俊也

一瀬 雅夫

喜多 宏人

近藤 福雄

園生 雅弘

滝川 一

寺本 民生

三宅 康史

村川 裕二

安田 一朗

山口 正雄

渡辺 晋一

村木 洋介
- 日本医科大学**

柴田 俊也

一瀬 雅夫

喜多 宏人

近藤 福雄

園生 雅弘

滝川 一

寺本 民生

三宅 康史

村川 裕二

安田 一朗

山口 正雄

渡辺 晋一

村木 洋介
- 慶應義塾大学**

青木 大輔

伊藤 裕

大家 基嗣

鈴木 則宏

竹内 勤

長谷川奉延

長谷川直樹

福田 恵一

村田 満

矢作 直久

山岸 敬幸

小林佐紀子

松本 一宏

遠山 周吾

金子 祐子

栗原 勲

本間 桂子
- 東京医科大学**

糸井 隆夫

大楠 清文

大屋敷一馬

河島 尚志

菅野 義彦

瀬戸口靖弘

坪井 良治

中村 博幸

濱田 篤郎

藤井 毅

- 南学 正臣
- 間野 博行
- 宮川 清
- 矢富 裕
- 山崎 力
- 山本 一彦
- 伊佐山浩通
- 清水 潤
- 高橋 聡
- 吉内 一浩
- 小出 大介

- 順天堂大学**

新井 一

矢崎 則夫

綿田 裕孝

三宅 幸子

村上 康二

高崎 芳成

瀬山 邦明

田村 直人

上原 由紀

後藤 広昌

藤澤 聡郎
- 東京医科歯科大学**

朝比奈靖浩

磯部 光章

稲瀬 直彦

上阪 等

内田 信一

小川 佳宏

杉原 健一

平尾 見三

古川 哲史

山内 慎一

横田 隆徳

渡辺 守

松岡 克善
- 杏林大学**

要 伸也

神谷 茂

神崎 恒一

古瀬 純司

杉山 政則

滝澤 始

和田 貴子
- 東京海洋大学**

井上 泉
- 東京工科大学**

森崎 隆幸
- 国士舘大学**

田中 秀治
- 聖路加国際病院**

小松 康宏
- 虎の門病院**

竹内 靖博

乳原 善文

星野 純一

宮川めぐみ
- 国立がんセンター研究所**

間野 博行
- がん・感染症センター都立駒込病院**

今村 顕史

三浦 義治

- 松本 哲哉
- 山科 章
- 大石 毅
- 柏木 保代
- 水野 泰孝
- 東京女子医科大学**

齋藤加代子

田邊 一成

新田 孝作

萩原 誠久

橋本 悦子

山中 寿

中西 敏雄

望月 俊雄

川口 鎮司

清水 京子

高村 悦子
- 国際医療福祉大学**

矢崎 義雄

高後 裕

後藤 順

堀江 義則

村上 正人
- 東京慈恵会医科大学**

大草 敏史

桑野 和善

東條 克能

横尾 隆

吉村 道博
- 昭和大大学**

小川 良雄
- 東邦大学**

五十嵐良典

池田 隆徳

亀田 秀人

川合 眞一

鈴木 光也

関根 孝司

銘田 一博

本間 栄

佐地 勉

日紫喜良

吉澤 定子
- 杏林大学**

要 伸也

神谷 茂

神崎 恒一

古瀬 純司

杉山 政則

滝澤 始

和田 貴子
- 東京海洋大学**

井上 泉
- 東京工科大学**

森崎 隆幸
- 国士舘大学**

田中 秀治
- 聖路加国際病院**

小松 康宏
- 虎の門病院**

竹内 靖博

乳原 善文

星野 純一

宮川めぐみ
- 国立がんセンター研究所**

間野 博行
- がん・感染症センター都立駒込病院**

今村 顕史

三浦 義治

- がん研有明病院**

五十嵐正広
- NTT東日本関東病院**

松橋 信行
- 国立成育医療研究センター**

斎藤 博久
- 東京都医学総合研究所**

内原 俊記
- 国立感染症研究所**

大石 和徳

西條 政幸

宮崎 義継

多屋 馨子
- 国立国際医療研究センター**

上村 直実

大曲 貴夫

狩野 繁之

田辺 晶代

塚田 訓久
- 国立精神・神経医療研究センター**

水澤 英洋

後藤 雄一
- 国立病院機構東京病院**

永井 英明
- 東京都保健医療公社**

味澤 篤

大西 健児

中村(内山)ふくみ
- 吉祥寺あさひ病院**

安田 隆
- 武蔵野赤十字病院**

泉 並木

杉山 徹
- 渋谷内科・呼吸器アレルギークリニック**

土肥 眞
- 伊藤病院**

吉村 弘
- 練馬光が丘病院**

杉山幸比古
- 光仁会第一病院**

杉原 健一

小坂 純司

中島 淳

田中 克明
- 聖マリアンナ医科大学**

金子 周一

伊東 文生

柴垣 有吾

尾崎 承一

宮澤 輝臣

栗本 典昭

竹村 弘

小澤俊一郎

松尾 康正
- 横浜市市民病院**

立川 夏夫
- 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター**

城倉 健
- 済生会横浜市南部病院**

山田 英司
- 済生会横浜市東部病院**

藤澤 知雄

- 横浜労災病院**

西川 哲男

城 裕之
- 北里大学**

阿古 潤哉

鈴木 隆浩

西山 和利

廣畑 俊成

相澤 好治

福本真理子

柳田 敦子
- 東海大学**

今井 裕

桑平 一郎

坂部 貢

鈴木 康夫

高木 敦司

深川 雅史

峯 徹哉

和田 健彦
- 国立病院機構相模原病院**

海老澤元宏

長谷川一子
- 国立病院機構久里浜医療センター**

横山 顕
- 新百合ヶ丘総合病院**

國分 茂博
- 川崎市立多摩病院**

松下 和彦

中 部
<ul style="list-style-type: none">新潟大学 <div>齋藤 昭彦</div> <div>中田 光</div> <div>成田 一衛</div> <div>中田 力</div> <div>岡本浩一郎</div> <div>田中 恵子</div>

- 山梨大学**

榎本 信幸

北村健一郎

桐戸 敬太
- 信州大学**

角谷 眞澄

高 昌星

田中 榮司

花岡 正幸

上松 一永
- 岐阜大学**

犬塚 貴
- 浜松医科大学**

須田 隆文

宮嶋 裕明

渡邊 裕司

沖 隆

杉江 陽子
- 常葉大学**

杉江 秀夫
- 葵町こどもクリニック**

杉江 陽子
- 名古屋大学**

有馬 寛

石黒 直樹

清井 仁

葛谷 雅文

後藤 秀実

菅波 孝祥

長谷川好規

松下 正

丸山 彰一

室原 豊明

祖父江 元

廣岡 芳樹
- 名古屋市立大学**

飯田 真介

城 卓志

新実 彰男
- 藤田保健衛生大学**

乾 和郎

今泉 和良

尾崎 行男

剣持 敬

吉岡健太郎

芳野 純治

小坂 俊仁
- 愛知医科大学**

今井 裕一

高見 昭良

三鴨 廣繁

山口 悦郎
- 愛知みずほ大学**

佐藤 祐造
- 安城更生病院**

安藤 哲朗
- 国立長寿医療研究センター**

荒井 秀典

近 畿

- 三重大学**

伊佐地秀司

伊藤 正明

片山 直之

山田 典一

和田 英夫

山口 素子

荻原 義人

藤本 直紀
- 鈴鹿医療科学大学**

葛原 茂樹
- 滋賀医科大学**

安藤 朗

前川 聡

三浦 克之

村田喜代史

佐々木雅也
- 京都大学**

一山 智

稲垣 暢也

上本 伸二

木村 剛

戸井 雅和

前川 平

三森 経世

柳田 素子

山田 亮

陳 和夫

曾根 正勝

齋藤 成達

山根 俊介
- 京都府立医科大学**

伊藤 義人

中川 正法

谷脇 雅史
- 京都女子大学**

田中 清
- 国立病院機構京都医療センター**

伊藤 義人

中川 正法

谷脇 雅史
- 兵庫医科大学**

飯島 尋子

三輪 洋人

中野 孝司

中村 志郎

西口 修平

増山 理

榎本 平之

大島 忠之

夏秋 優

東 直人

合田亜希子

富田 寿彦

宮寄 孝子

近藤 隆
- 兵庫県立こども病院**

前田 貢作
- 甲南加古川病院**

片上 秀喜
- 奈良県立医科大学**

木村 弘

斎藤 能彦

嶋 緑倫

三笠 桂一

吉川 正英

西久保敏也

志田 泰明

笠原 敬
- 和歌山県立医科大学**

赤木 尚史

伊東 秀文

北野 雅之

山上 裕機
- 大阪府済生会中津病院**

吉崎 哲也
- 大阪府済生会野江病院**

三嶋 理晃

- JCHO星ヶ丘医療センター**

松本 昌泰
- 近畿大学**

有馬 秀二

池上 博司

大槻 俊輔

上碓 俊法

楠 進

工藤 正俊

栗田 隆志

竹山 宜典

松村 到
- 国立循環器病研究センター**

小川 久雄

安斉 俊久

白石 公
- 四天王寺 たまつくり苑診療所**

北川 誠一
- 神戸大学**

東 健

西 慎一

木澤 義之

西村 善博

高橋 裕

時松 一成

片山 義雄
- 兵庫医科大学**

飯島 統

飯島 尋子

三輪 洋人

中野 孝司

中村 志郎

西口 修平

増山 理

榎本 平之

大島 忠之

夏秋 優

東 直人

合田亜希子

富田 寿彦

宮寄 孝子

近藤 隆
- 兵庫県立こども病院**

前田 貢作
- 甲南加古川病院**

片上 秀喜
- 奈良県立医科大学**

木村 弘

斎藤 能彦

嶋 緑倫

三笠 桂一

吉川 正英

西久保敏也

志田 泰明

笠原 敬
- 和歌山県立医科大学**

赤木 尚史

伊東 秀文

北野 雅之

山上 裕機
- 徳島大学**

礪部 威

木下 芳一

杉本 利嗣

田邊 一明

山口 修平
- 島根大学**

礪部 威

木下 芳一

杉本 利嗣

田邊 一明

山口 修平
- 島根県立中央病院**

久良木隆繁
- 岡山大学**

阿部 康二

伊藤 浩

大塚 文男

岡田 裕之

木浦 勝行

市原 英基

麻植 浩樹

久橋 圭明

大橋 寿夫

二宮 崇
- 川崎医科大学**

柏原 直樹

砂田 芳秀

宗 友厚

通山 薫

畠 二郎

眞部 紀明

宮下 修行
- 広島大学**

木原 康樹

小林 正夫

茶山 一彰

杉山 英二

田妻 進

田中 信治

秀田 敬広

正木 崇生

服部 登

山本 秀也

青木 志郎

柘植 雅貴
- 国立病院機構呉医療センター**

岩崎 泰昌
- JA広島厚生連尾道総合病院**

花田 敬士
- 山口大学**

神田 隆

坂井田 功

谷澤 幸生

矢野 雅文

奥田 真一
- 徳島大学**

香美 祥二

佐田 政隆

竹谷 豊

西岡 安彦

峯岸 克行

福本 誠二

松本 俊夫
- 香川大学**

西山 成

正木 勉

土橋 浩章

- 高松神経内科クリニック**

山本 光利
- 愛媛大学**

石井 榮一

日浅 陽一

松浦 文三

三木 哲郎

徳本 良雄
- 高知大学**

岩崎 泰正

寺田 典生

西原 利治

藤本 新平

古谷 博和

横山 彰仁

- 国立病院機構松江医療センター**

中島 健二
- 島根県立中央病院**

久良木隆繁
- 岡山大学**

阿部 康二

伊藤 浩

大塚 文男

岡田 裕之

木浦 勝行

市原 英基

麻植 浩樹

久橋 圭明

大橋 寿夫

二宮 崇
- 川崎医科大学**

柏原 直樹

砂田 芳秀

宗 友厚

通山 薫

畠 二郎

眞部 紀明

宮下 修行
- 広島大学**

木原 康樹

小林 正夫

茶山 一彰

杉山 英二

田妻 進

田中 信治

秀田 敬広

正木 崇生

服部 登

山本 秀也

青木 志郎

柘植 雅貴
- 国立病院機構呉医療センター**

岩崎 泰昌
- JA広島厚生連尾道総合病院**

花田 敬士
- 山口大学**

神田 隆

坂井田 功

谷澤 幸生

矢野 雅文

奥田 真一
- 徳島大学**

香美 祥二

佐田 政隆

竹谷 豊

西岡 安彦

峯岸 克行

福本 誠二

松本 俊夫
- 香川大学**

西山 成

正木 勉

土橋 浩章

- 高松神経内科クリニック**

山本 光利
- 愛媛大学**

石井 榮一

日浅 陽一

松浦 文三

三木 哲郎

徳本 良雄
- 高知大学**

岩崎 泰正

寺田 典生

西原 利治

藤本 新平

古谷 博和

横山 彰仁

- 産業医科大学**

田中 良哉

原田 大

大和 浩

濱砂 良一
- 九州大学**

赤司 浩一

小川 佳宏

吉良 潤一

筒井 裕之

中西 洋一

堀内 孝彦

諸橋憲一郎

伊藤 鉄英

大塚 隆生

鶴屋 和彦

竹中 克斗

野村 政壽
- 福岡大学**

向坂彰太郎

高松 泰

坪井 義夫

松井 敏幸

武井 敏彦

渡辺憲太郎

八尾 建史
- 福岡市立こども病院**

青木 知信
- 久留米大学**

鳥村 拓司

長藤 宏司

廣松 雄治

福本 義弘

星野 友昭

東 公一

植田晋一郎
- 岡山昌樹国際医療福祉大学**

赤松 直樹
- 新古賀病院糖尿病センター**

川崎 英二
- 佐賀大学**

青木 洋介

出原 賢治

原 英夫

藤本 一眞

岩切 龍一
- 宮崎大学**

河上 洋

下田 和哉

中里 雅光

藤元 昭一

- 望月 仁志
- 藤元総合病院**

山口 幸二
- 熊本大学**

安東由喜雄

荒木 栄一

佐々木 裕

向山 政志

田中 基彦

掃本 誠治
- 熊本県立大学**

下田 誠也
- 大分大学**

井原 健二

柴田 洋孝

村上 和成

平松 和史
- 長崎大学**

山下 俊一

泉川 公一

中込 治

濱野真二郎

前村 浩二

宮崎 泰司

迎 寛

森内 浩幸

森田 公一

安田 二郎

柳原 克紀

本村 政勝

賀来 敬仁
- 長崎総合科学大学**

本村 政勝
- 国立病院機構長崎医療センター**

八橋 弘
- 鹿児島大学**

井戸 章雄

大石 充

佐野 輝

高嶋 博

武井 修治

西 順一郎

樋口 逸郎

丸山 征郎

有村 公良

中村 友紀
- 大勝病院**

有村 公良
- 琉球大学**

大屋 祐輔

藤田 次郎

外間 昭
- 国立病院機構沖縄病院**

比嘉 太

九州・沖縄

- 産業医科大学**

田中 良哉

原田 大

大和 浩

濱砂 良一
- 九州大学**

赤司 浩一

小川 佳宏

吉良 潤一

筒井 裕之

中西 洋一

堀内 孝彦

諸橋憲一郎

伊藤 鉄英

大塚 隆生

鶴屋 和彦

竹中 克斗

野村 政壽
- 福岡大学**

向坂彰太郎

高松 泰

坪井 義夫

松井 敏幸

武井 敏彦

渡辺憲太郎

八尾 建史
- 福岡市立こども病院**

青木 知信
- 久留米大学**

鳥村 拓司

長藤 宏司

廣松 雄治

福本 義弘

星野 友昭

東 公一

植田晋一郎
- 岡山昌樹国際医療福祉大学**

赤松 直樹
- 新古賀病院糖尿病センター**

川崎 英二
- 佐賀大学**

青木 洋介

出原 賢治

原 英夫

藤本 一眞

岩切 龍一
- 宮崎大学**

河上 洋

下田 和哉

中里 雅光

藤元 昭一

- 長崎総合科学大学**

本村 政勝
- 国立病院機構長崎医療センター**

八橋 弘
- 鹿児島大学**

井戸 章雄

大石

スタイルに合わせて選ぶ内科学。
より使いやすく、よりお求めやすく。
進化を続ける内科学書。

●座右におく机上版 [2017年4月上旬刊行]

B5判・函入上製・2段組・オールカラー 2534頁

定価28,944円(本体26,800円+税)

ISBN 978-4-254-32270-5 C3047



●携帯に便利な分冊版

[2017年3月上旬刊行]

B5判・函入並製・2段組・オールカラー 2822頁

※より扱いやすい5分冊。

各分冊に全体の索引が付きま。

定価26,784円(本体24,800円+税)

ISBN 978-4-254-32271-2 C3047



第11版では豊富なデジタル付録が
ウェブ上で閲覧できます。

- 本文500頁相当の大容量。本文の理解をより深め、多様なエビデンスを得られます。
- 動画(音声)、図・表、コラム・ノート、文献など。

※「内科学 第11版」Facebookでも情報発信しております。

こちらをご覧ください。 <https://www.facebook.com/naikagaku/>

▶デジタル付録目次ページ
(イメージ)



きりと線

【お申し込み書】この申し込み書にご記入のうえ、最寄りの書店にご注文下さい。

※【机上版】と【分冊版】とは価格が異なりますのでご注意ください。

内科学 第11版【机上版】 冊

B5判 2534頁 定価28,944円(本体26,800円) ISBN 978-4-254-32270-5 C3047

内科学 第11版【分冊版】 (5分冊、分売不可) 冊

B5判 2822頁 定価26,784円(本体24,800円) ISBN 978-4-254-32271-2 C3047

お名前 〃住所 〒

TEL ()

取扱書店

朝倉書店

〒162-8707 東京都新宿区新小川町6-29/振替00160-9-8673
電話 03-3260-7631/FAX 03-3260-0180
<http://www.asakura.co.jp> eigyo@asakura.co.jp